

令和7年度工学部数理データサイエンスAI学修教育プログラム自己点検・評価について

自己点検・評価の視点	評価総括	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況	概ね良好	令和7年度は、16名が本プログラムの受講を希望している。昨年度92名と併せて、合計109名となり、収容定員に対する履修率は約6%となる。申請時の目標値(12%)には達していないが、1学年の入学定員430名、2学年の定員860名に対する割合で考えると実質的な履修率は12.7%として、達成している。 引き続き、令和8年度以降についても、周知案内を実施する。
学修成果	概ね良好	令和7年度に実施したプログラム科目のシラバスを確認したところ、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)の必要要件である3つの基本的要素およびモデルカリキュラム対応箇所の内容を満たしていることが確認できた。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	概ね良好	全学で実施する「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」(授業アンケート)を実施しており、令和7年度に実施したプログラム科目における学生に対して授業の理解度について尋ねた項目の平均点は5点満点中約3.9点であり、昨年度より高い値となった。プログラムの成果としては、平均的評価ではあるが、昨年度と比較しても概ね良好であると判断した。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	概ね良好	全学で実施する「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」(授業アンケート)を実施しており、令和7年度に実施したプログラム科目における学生に対して授業の関心および満足度について尋ねた項目の平均点は5点満点中前者が約3.8点、後者が約4.0点であり、昨年度より高い値となった。プログラムの成果としては、平均的評価ではあるが、昨年度と比較しても後輩等他の学生への推奨度は高いのではないかと推察され、概ね良好であると判断した。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	今後実施予定	進捗状況としては評価できないが、本プログラムについての案内を実施し、履修率向上に向けて取り組む予定である。

自己点検・評価の視点	評価総括	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	今後実施予定	令和6年度開設のため修了者がまだ出ていないが、本プログラム修了者に対して、卒業時アンケート等で、履修した内容が進路に役に立ったか等を調査し、分析することで、本プログラムの授業改善に活用する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	今後実施予定	工学部では、「実践開発演習」で実際に企業人の方を講師として迎え、実践的なソフトウェア開発の指導にあたるなど、産業界とのつながりも深いことから、随時企業の講師等との意見交換を通した教育プログラムの改善を行う予定。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	概ね良好	プログラムの導入にあたる授業科目である「データサイエンスII」で、当該学問分野の応用例や社会的意義を平易な言葉で解説し学修の動機付けをしている。 これに続く専門分野の各授業科目では、応用システム構築の基礎となる理論と技術を講述しており、工学を志す学生にとって難易度が高く達成感を得られる内容としている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	概ね良好	自己点検・評価として、授業科目ごとに学生の「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」(授業アンケート)を行っているだけでなく、別途、教育満足度調査を実施し、その結果について、毎年度三重大学大学院工学研究科教務委員会が中心となって、評価・分析を行い、結果を全学で共有し、意見交換する機会を設けることで、学生にとってより分かりやすい授業となるよう改善に取り組んでいる。